

5. 意見交換会でのご意見・ご質問 Q & A

9会場で（アンケート含む）いただきましたご意見・ご質問の中から抽出した事項について、回答を報告いたします。（要旨をまとめていますのでご了承ください。）

[道路・河川・防災関係]

Q 垣見隧道の完成はいつごろになるのか。

A 垣見隧道については、JRと協定を結び、現在線路部分の改修工事を実施いたしました。今後は残る用地の買収を進め、隧道掘削のための立坑工事に着手する予定で、平成31年度の完成を目指して取り組みを進めてまいります。

Q 国道8号のバイパス工事の計画があると聞くと、築瀬の交差点については去年も聞いたが返答がないままで、どうなっているのか？ 能登川の隧道ができて国道で渋滞すれば意味がないという声もある。

A 国道8号バイパスは現在彦根市周辺で進められておりますが、東近江市までの具体的な計画はされておらず、今日までルートを示されるよう要望を行ってきました。このことから、平成27年度に彦根市から東近江市（御幸橋）までの概略ルートの検討に着手をされる予定です。

しかし、御幸橋以南の野洲栗東バイパスまでの区間が未計画であり、計画も含めた早期整備を要望していきます。また、バイパスや改築には相当の時間を要する事から、御幸橋南詰交差点の渋滞対策について交差点改良など短期的な方策も講じられるよう要望を行っております。

Q 県道中里山上日野線など、県道の早期整備をお願いしたい。

A 現在、大林町地先において用地買収に着手をされています。本年度から用地取得が出来たところから随時工事に着手される予定です。

愛東外町地先については、滋賀県道路整備アクションプログラムの事業化検討路線に位置付けられている事から事業化に向けた要望を行っています。

Q 愛知川左岸道路の拡幅について、愛東から能登川に行くのに幹線道路がない。国の事業と思うが、早くできるように要望してほしい。

A 愛知川左岸道路については、東近江市外町地先で八日市新川の左岸を整備中です。国道307号から林田町・五智町・中小路町を抜け、神田町の八日市新川左岸から愛知川左岸へと合流し能登川方面へと進む道路を愛知川左岸道路と位置付けています。現在は、林田町、五智町、中小路町付近の集落内が狭く、乗用車同士のすれ違いも出来ない状態です。名神高速道路、東海道新幹線、近江鉄道、国道8号など市内を南北に縦断する交通網との交差もあり、新たなルートも限られておりますが、概略設計を行い滋賀県に提案する予定です。

能登川地区への通行に支障となっている国道8号御幸橋南詰交差点付近の慢性的な渋滞対策についても、国や県に対して解消に向けた対策を講じるよう要望を行っています。

Q 信号機設置の要望を出したが2年間進展がない。信号機設置までは、早期に道路標識等の設置をお願いしたい。登校時の現状を見ていただき、進捗状況を自治会に報告して頂きたい。(太郎坊参道の交差点)

A 太郎坊参道と市道山ノ手線交差点の信号機の設置につきましては、平成25年度にご要望いただき、県公安委員会に継続して設置要望しておりますが、交通量等から設置の見込みが低いのが現状です。当交差点につきましては、東西方向(山ノ手線～太郎坊線)については、一時停止のための標識、また南北方向(太郎坊参道)につきましては、横断歩道有りの標識が設置されており、交差点として一定の明示がなされておるものと考えておりますが、先日行いました通学路点検の結果、当交差点については、十字路の路面標示を明確に表示する対策をとることになりました。

Q 国道421号の道路改良は進んできたが、佐目橋本体は出来上がっているのに取り付け部分は着工できていない。なぜか。

A 橋梁にかかる予算が膨大なため優先的に橋梁工事に充てています。並行して取り付け道路の構築もされていますが、予算の関係もあり遅れているのが現状です。

Q 種町ドリームハイツの浸水防止堤防の設置、かさ上げはどのように進むのか。

A ドリームハイツの浸水防止堤防の設置について、現在詳細設計を行っています。堤防設置までの間の緊急時には排水ポンプ車による対応を行います。

Q 雨が降ったとき、排水溝に落ち葉などが溜まり水たまりができます。溜まる場所はいつも分かっていると思うので、マップなどを作って迅速に動いて欲しいと思います。

A 大雨時など、道路が冠水する恐れがあるときは、適時パトロールにて点検を行っており、市内でよく起こりそうな箇所は市で把握しております。側溝の落ち葉等によるつまりから発生する水たまりにつきましては、地域のみなさまに町内清掃等でご協力をお願いしておりますが、特に酷い箇所がございましたら調査いたしますので、市役所管理課までご連絡をお願いします。

Q 災害時、災害警報時に住民への告知がない。告知放送を活用してはどうか。

A 警報の発令は以前から、解除は平成26年10月から音声告知放送で放送されるようになっていました。また、永源寺ダムの放流量についても、愛知川沿線の各自治会長に連絡するようになりました。

Q 河川整備推進特別委員会が県に要望された内容を知りたい。

A 愛知川、日野川、大同川などの1級河川の管理は県です。愛知川の計画にあつては2400t/秒に耐えうる堤防の強化と、蛇砂川においては永源寺地区、八日市地区、近江八幡地区などのそれぞれの地区でカット排水をする防災計画です。八日市新川の計画は、平成27年度中に暫定通水をする予定ですが、上流部にあつては素掘りでよいので通水することを要望しています。越水にならないように補修費で護岸強化も併せて要望しました。

また日野川は、国直轄工事にしないと進まないのので、国会議員などを通して国に要望しています。

Q 何の報告もないまま、自治会内の山が土砂災害危険区域に指定された。どうなっているのか。

A 土砂災害警戒区域等の指定につきましては、行政が指定を行う自治会に出向き説明をさせて頂いておりますが、今後も引き続き、周知に努めてまいりたいと考えます。そのうえで、区域指定後の対応や緊急時の行動計画は、市民と共に進めていけるよう努めてまいります。

Q 愛知川と八日市新川の水位は、愛知川の方が高いのでは。

A 八日市新川は、愛知川との合流に際し逆水の影響が無いように計画されています。直接愛知川に合流すると愛知川の方が高くなっていますが、愛知川と並行して導水し、安全に流下するように計画されています。

Q 学校給食の食材は、全て入札制度で一番安いところに決まる。一番安いところにするのではなく、地産地消を推進し、市産物を提供する方法はないのか。

A 登録業者による入札により、給食食材の購入にかかる納入業者を決定しています。また地場産野菜の推進を図るため、市内産と市外産野菜を別々に入札して、市内産の中で一番安い業者から購入して地場産野菜を優先して使用しています。

学校給食への供給を持続するには、年間を通して安定した供給量の継続性、価格、品質を保持してもらわなければなりません。地元産を優先し、食材を購入することについては、今後も関係各課と連携を図り、取り組んでいかなければならないと考えています。

Q コミセンの運営を地域に委託するのはいいことかも知れないが、社会教育や人づくりに関して、東近江市としての方針が欠けているのでは。

A 社会教育に必要な援助を行うことは行政の責務です。コミセン館長会議や職員会議、各種研修会などを通じて社会教育が推進されるよう指導助言を引続き行うことが必要であると考えています。

Q 教育後援会の会費について、備品購入などは市の予算から出すものであり、会費はどのように使われているのか。

A 学校備品購入費については、市の予算措置にて支出すべきものであり、学校教育後援会の有無により予算額に増減はありません。

後援会費は、中学校では主に部活動補助、小学校については外部講師の謝礼や学校独自で行っている学力テストの費用や課外授業等のバス代の補助などに使われています。

また、備品につきましては、テントや児童の活動のための一輪車等に一部使わせていただいております。

[医療・社会福祉関係]

Q 単位老ク連の各地区老ク連からの脱退が著しい。補助金を出している行政としての見解は。

A 高齢者の生きがいや健康づくり等を目的とした市老人クラブ連合会をはじめ地区老人クラブ連合会活動は重要であると認識しており、活動補助や運営面等の支援を行っていますので、有効に活用していただきたいと思います。

Q 地域包括支援センターと民生委員・児童委員との関連はあるのか。また、相談は民生委員ではなく直接支援センターにすればいいのか。

A 今年4月から介護制度等に関する専門的な相談員を、支所単位で置くことで、身近に相談できるようになりました。

民生委員・児童委員については、これまでどおり、地域の身近な相談相手として活動いただくとともに、相談内容によっては地域包括支援センターにつながりいただくなど連携した対応を行っています。

[農業・観光振興関係]

Q サル、イノシシ、シカ被害に苦勞している。獣害対策の強化を。

A 獣害対策については、ワナ、銃を使用した有害捕獲を実施しており、特にサルについては併せて個体数調整に取り組めます。また、侵入防止策・電気柵の設置にも引き続き取り組んでいきます。

[地域の活性化・まちづくり関係]

Q 蒲生S I C（スマートインターチェンジ）を活かしたプランは。

A 蒲生S I Cの開通により予想を上回る利用があり、このS I Cを活用した地域振興策を検討していく必要性については強く認識しています。蒲生S I C周辺は優良農地が広がっており、農振地のため、1～2年で活用することは難しいですが、所有者や地元の意見等を聞きながら、活性化に向けた取り組みをしたいと思っています。

今年度から市街化想定区域整備計画に着手しますので、現在の土地利用を継続する中で農業を中心とした活性化策の検討、将来の企業誘致等に向けた区域の見直し等、両面を勘案しながら検討課題としたいと考えています。

Q 愛東地区では分家でも（非農家には）家が建たず、アパートはもちろん建たない。若者が地域を離れ、地域が崩壊する。

A 愛東地区は、非線引きの都市計画区域であるため、都市計画法については非農家における自己の戸建住宅や集合住宅が建築できないということはありませんが、場所によっては制約がありますので、個別的には相談が必要です。

Q 地域創生（まち・ひと・しごと）について自治会が悩んでいる課題は、調整区域ばかりで非農家の次男は地元に住みたくても分家できないこと。核家族化が進み高齢化が進むと、自治会費がとりにくい世帯も出てくる。市街化調整区域内でも家が建てられる施策を考えてもらいたい。

A 都市計画法の規定及び市条例により、市街化調整区域でも難しいですが一定の要件を満たせば非農家の次男でも分家が可能です。個別的には相談が必要です。

Q 長勝寺地区の農振地除外と市街化区域編入を検討ください。

A 農業振興地域の整備に関する法律で規定する農用地区域（いわゆる青地農地）の除外及び市街化区域編入は、市の裁量で決定できるものではありませんが、今年度から線引きの見直しのための調査を行い、地域の状況を把握しているところ です。

Q 能登川地区に商業ゾーンを広げて、活性化を望む。また、能登川駅東口の駅前広場の整備を。

A 今年度から線引きの見直しについての調査を行っており、J R能登川駅を中心に、そのポテンシャルを生かした商業・交流といった都市機能の充実、強化が必要であるとの観点から、駅・支所周辺の土地利用等について検討していきます。

また、駅前広場と駅東口に通じるアクセス道路を整備していく計画です。

Q まち協は14地区あるが、活動内容を公平に評価して、それに見合う手当をしてほしい。

また、まちづくり総合交付金の詳細は。

A すべてのまちづくり協議会が地域課題の解決のための活動に意欲的に取り組まれていると考えています。

また、取り組んでいる活動内容につきましては、環境保全、地域福祉、防災・防犯、文化振興等、多分野にわたり、多様な方法で、地区毎に活動いただいておりますが、こうした活動の意欲や成果を比較・評価することは大変困難なことと考えますので、地区の規模に応じて配分し、自由に使っていただけるまちづくり総合交付金制度を創設いたしました。この交付金は、今までのまちづくり協議会交付金、地域活動支援補助金、地域活性化補助金、自治会連合会補助金が一本化し、補助金の垣根がなく、使い勝手のよい補助金交付金となりました。

Q 旧五個荘支所の国道側向かいの丸栄跡地は売却することが決まったらしいが、中止して活用できないか？ 約5億円で購入したものを半額程度でしか売れないらしいが、その責任もうやむやなものになる。種々の観光施設が近隣にあるが、食べるどころも土産を買うところもない。商業的な拠点になる施設を建てて観光に役立てるとか、民間企業に貸して運営するとかできないか。

A 平成24年度と平成26年に、住宅開発以外の目的で一般競争入札を行いましたが、いずれも契約入札不調に終わりました。

今後も、景気の動向を見据え、企業誘致等で地域の雇用と活性化につながるよう効果的な土地活用を検討していきます。

Q 里山整備について、にぎわいの里づくり条例のビジョンが活かされていない。市もしっかりと間に入ってほしい。

A 市域で取組んでいる里山整備事業は、択伐による造林事業（森林施業）ですが、群生地や希少植物を保存しながら事業実施は可能であり、事前に地元と業者が十分な調査・調整を行ってまいります。

Q 地方創生の概要と提案の手続きについて

A 地方創生については、人口減少時代に対応し、将来にわたって活力ある地域社会を維持することを目指して、様々な分野のご意見を伺いながら練り上げていきたいと思っております。

国に認定されれば、予算が付くこととなりますので、本年度中に策定していきたいと思っています。

各種団体等からのご意見やご提言は、所管課で受付させていただきます。

Q 新幹線新駅の調査費用を市議会も承認して前向きと感じたが、その後の報告がなく、市も議会も力強い意志を感じられない。地方創生に経済効果あり。やり遂げてほしい。

A 調査結果によると、五個荘は厳しい状況であり、現在、事務レベルで話し合っています。

Q 全国的に里山づくりで一番、竹林のはびこり対策が協議されている。竹林の有効活用など先進地を参考に対策を要望。

A 現在の里山整備により発生する竹の利用については、段積み状態で放置するか一部をチップ化して、土壌化しているのみであります。今後におきましては、ご提案にあります先進地の取組み内容を参考にして、竹炭への再生など有効な活用策を検討してまいりたいと考えます。

[その他]

Q 蒲生病院が19床の診療所が変わって、不在者投票ができなかった。投票意思のある人に対して投票ができるようにしてほしい。選挙管理委員会と病院長が話し合ってもらえればよいのではないか。

A 病床数19床の蒲生医療センターは、法律上不在者投票ができる施設に該当しないため、診療所内での投票はしていただくことはできません。

Q 新庁舎も完成し、本庁舎の改修も終わったが、別館等はどうなるのか。

A 西庁舎等の跡地については一体的に整備し、公用車の駐車場とする計画です。
別館跡地については、暫定的に公用車駐車場として使用する予定で東庁舎と別館跡地の利用については、有効に活用できるように検討していきます。

Q 婚活に行政がかかわることは大事なことである。地方創生をより良いものにするためには、独自の取り組みが必要である。

A まち協の活動としても婚活イベントを開催されていますが、市としても今年度初めて市内男性と都市部の女性との婚活イベントを計画しています。

Q 市広報紙の新聞折込は無駄がある。自治会配布の検討を。

A アンケートの結果、自治会配布に協力できないと回答された自治会が6割を超える結果であったため、今後も従来通りの新聞折込により配布することになりました。

Q コミセン周辺の駐車場問題は、蒲生地区の最大の課題。コミセンの利用者にも人気があり、フル稼働。3反、5反でも用地確保をしていただきたい。

A 蒲生支所周辺の駐車場は、事前にコミセンや支所など公共施設の行事やイベント等の開催予定を把握し、市関係職員等の駐車調整を行うことで、効率的な駐車場の利用が図られております。駐車場用地としての土地の確保については、蒲生医療センター隣接の土地も含め、近隣の用地を有効活用されていますが、議会としては、引き続き強く要望していきます。

Q 合併して10年経つが、水道料金の統一が図れないのか。

A 段階的に料金を統一するようになっています。平成28年度を目標に取り組んでいます。

Q 農村下水道を公共下水道へ接続する計画について昨年も質問したが、永源寺地区は計画がないとのことであった。地元住民で施設の維持管理も高齢化により困難になってきている。今後どうするのか。

A 永源寺地区は、都市計画区域ではないので現段階では公共下水道には接続できません。

また、維持管理においては、基本的に地元管理にてお願いします。

Q 民生委員に対して出生、死亡、転入などの情報提供をしてほしい。

A 住民異動情報等の必要な情報については、市民課と調整して住民基本台帳法に基づく申し出により、住民基本台帳の一部の写しを閲覧していただいております。

また、避難行動要支援者の情報については、登録に同意された方の情報を提供させていただいております。

Q 議会を現在、スマイルネット（ケーブルTV）で、生放送ならびに録画再放送しているが、インターネットでの放送などを取り入れてはどうか。

A 障害者の方も含め、より多くの方に閲覧できるよう工夫していきます。

インターネットによる録画配信は、6月議会から始めております。

Q 都市計画税がなぜ課税となったのか。また、前納報奨金がなぜなくなったのか。

A 都市計画税については、合併当時は八日市地区に課税されていましたが、同じ市の中で税負担が不均一となるため、能登川・蒲生・五個荘地区について、段階的に課税されることとなりました。また、前納報奨金制度は、市県民税を給与や年金から天引きで納入する人はこの制度を利用できないことや、固定資産税については、一部の納税資力のある人の制度であり、また納めた税金が一部の前納者に報奨金として交付することといった不公平感があることなどから廃止されたものです。